開校68周年

谷原小だより 6月号

やわら

発行　令和7年5月30日
練馬区立谷原小学校
校長　伊藤 雄一

練馬区立谷原小学校の
学校ホームページ
携帯サイトはこちらから↗

昭和のやわらっ子から令和のやわらっ子へ～語り継ぎたい 谷原小の原点～

校長 伊藤 雄一

6月8日は、谷原小学校の68回目の開校記念日です。1957年（昭和32年）の6月8日、新しく完成した谷原小の校舎に引っ越しました。谷原小学校のスタートは、1年前の1956年。石神井東小の児童が増え、教室が足りなくなり、石神井東中学校の一部を間借りして授業をするところからでした。（当時、石神井東中学校は現在の練馬高野台駅前の順天堂病院の場所にありました）「石神井東小学校分室」として始まり、翌年の4月1日に正式に練馬区立谷原小学校として独立開校しました。校舎の完成が6月6日。2日後の引っ越した日が谷原小学校の開校記念日となったのです。

校庭のど真ん中に道路があった開校当時の谷原小学校

開校30周年記念誌「わたしたちのやわら」には、「初代校長 宮坂先生の話」として、数々のエピソードが記録に残っています。谷原小の引っ越し。なんとリヤカーや人の手でも机や椅子を運んだそうです。谷原小にうつってからまもなく、新聞記者が谷原小の校庭に道路があるのをみつけて、「校庭に道路のある学校」と新聞に掲載しました。（昭和32年6月16日 毎日新聞）できたばかりの谷原小は、校庭が完成しておらず、校庭のど真ん中に道路（都道）があり、その道路を練馬区が新しい場所に道路をつくる計画を立て、都から買収する形で校庭となったのです。初年度の夏休みになって校庭に伸び放題になってしまったので、谷原小の子供たちはその草むらの中で、かくれんぼをして遊んだそうです。すると、また新聞記者が、「校庭の草むらの中でかくれんぼをして遊ぶ谷原小学校の児童」と新聞に載せました。夏休みが終わり、PTAの方や地元の方たちが雑草をきれいにとって下さり、その校庭で谷原小学校が開校して1回目の大運動会が行われました。

小雨が降る中行われた引っ越し作業

開校5周年記念誌「あゆみ」には、引っ越しの状況がさらに詳しく記されていました。6月8日引っ越しのその日、「小雨が降る中、ご父兄自ら子供たちとともに引っ越し作業をしていただきました。その時のご父兄の方の顔は喜びに満ち、また子供は未だペンキのにおいのする真新しい校舎で明日から勉強するんだという希望にみちた表情が身にあふれていた」引っ越し当日の嬉々として作業をする子供達と保護者の姿を思うとこの時から谷原小の歴史が動き出したのだと感慨深く思います。

今も残る開校当時のあしあと

先日の全校朝会で、谷原小の校庭の桜の話をしました。校歌にも、歌われている桜は、開校のとき保護者や地域の方、教職員や児童が力をあわせてなんと100本の苗木を植えたところから今につながります。桜が毎年咲くようになると「谷原小の桜」として地域でも評判になったそうです。この話は子供達もとても驚いていました。ソメイヨシノの寿命が50～60年ということで、学校が歴史の歩みを重ねる中で、伐採をせざるを得ない木も数多くありました。10年前の新校舎落成の際に、立派な桜の木を移植して残すなど大切にされてきた谷原小の桜の木です。伐採された桜の木をベンチにして今もラッコホールや昇降口に残り子供達にとって身近なものとなっています。現在まで残っている桜の木は20本ほどになってしまいましたが、これからも大切にされていくことでしょう。このほかにも、校庭の南側に残る旧正門の門柱、二宮金次郎さんの銅像、日時計の石碑など開校当初に、地域の協力者の方が谷原小に対する熱い思いをしたためて寄贈していただいています。

6月は谷原小の開校の月です。新しい学校建設、教育環境を整えていくために様々な面で苦慮する中、難局を地域、保護者、子供たち…皆の力で歩みだした開校当時の人々の知恵とパワー、そして熱い思いは谷原小のいつまでも大切にしたい原点です。令和に生きるやわらっ子にこれからも語り継いでいきます。